

分類番号	作品名	制作年	作者	生没年・出身地	説明
J-245	風神雷神	1895(明治28)	橋本雅邦	天保6-明治41 江戸(東京都)	災害をもたらす自然現象の中に神の存在を認め、それを畏敬する図像は昔からしばしば制作されている。作者は狩野派の画家として出発、東京美術学校
O-124	白馬山下の春	制作年不詳	小林和作	明治21-昭和49 山口県-尾道市	作者ははじめ日本画を学び、その後洋画に転向。日本各地の自然の風景をテーマに数多くの制作をした。県立美術館には油彩画の他にそのもとになった
J-60	嶽	1960(昭和35)	奥田元宋	明治45-平成15 三次市	作者は日展を中心に活躍した日本画家。そのままの姿でなく作者の意識をとおして自然を描いた風景画を多く制作している。ほかに「青山白雲」(J-2
J-24	巴峽の朝	1968(昭和43)	桑原清明	大正12- 三次市	大地とそれを包む大気を雄大なスケールで描いている。作者は東京美術学校を卒業、日展で活躍する日本画家。
PS-3	広島夏の川	1903(明治36)	小林千古	明治3-明治44 廿日市市	自然の残る美しい広島の川を描いている。現在の広島の風景と比較するとその違いに驚かされる。作者は明治期に米国で洋画を学んだ、広島洋画界の先駆
J-8	伯耆大山暮秋	1965(昭和40)	森谷南人子	明治22-昭和56 岡山-尾道	作者はのどかな山村の風景とそこに暮らす人々の姿を独自の色彩と筆致で描いた作品を多く残している。ほかに「初春閑村」(J-58)などがある。
J-34	暮春	1930(昭和5)	児玉希望	明治31-昭和46 安芸高田市	森の中の茅葺き小屋と渓流から水をひいてまわる水車が描かれている。作者は芸術院会員で日展理事を務めた日本画家。他に「飛泉涼々」(J-31)な
O-382	高山の水車	1969(昭和44)	武永楨雄	大正2-平成9 広島市	広島県の民家シリーズ(152点)のなかの1点。「失われてゆくものへの愛惜の記録の域を超えて描き出された文明論であり、現代批判史である。」と
W-81	洗濯	1911(明治44)	南薫造	明治16-昭和25 安浦町	家の前を流れる小さな水路で洗濯をしている様子を描いている。作者は東京美術学校を卒業、英国に留学した。近代洋画の代表的な作家の一人。
J-265	早春図	大正時代	土田麦僊	明治20-昭和11 新潟県	豊かな自然の中の農村風景を描いている。作者は新潟県佐渡の生まれ。西洋の新しい絵画を取り入れた新しい日本画をつくり出そうとするグループのなか
J-292	隠岐の海	1914(大正3)	速水御舟	明治27-昭和10 東京都	砂浜に並ぶ石をのせた屋根が自然の厳しさを感じさせるが、絵全体からは自然の豊かさが感じられる。近代日本画の代表的作家の青年期の代表作の一つ。
O-62	耕丘	1944(昭和19)	岩岡貞美	大正2-昭和20 広島市	ブリュッゲルやミレー、清水登之に惹かれ、自らも「土の画家」であろうとした作者の数少ない遺作の中の一点。他に「炭焼き風景」(O-63)があ
W-7	塩田	1939(昭和14)	長田健雄	明治34-昭和15 呉市	高度成長期、製塩の工業化で1972年全廃された塩田の風景を描く。作者は呉市立高等女学校教諭で二科展、日本水彩展に出品。昭和15年39歳で急
O-475	瓦焼風景	1933(昭和8)	松井正	明治39-平成5 広島市	こうした瓦焼きの風景も今では見られなくなったであろう。堅牢で再利用のできる瓦には先人の知恵が込められているのであろう。
O-98	雪景	1966(昭和41)	太田忠	明治41-昭和4 広島市	作者は国鉄機関士のかたわら新作協会展等で活躍した洋画家。県北の風景を独特のマチエールと鮮やかな色彩で描いた作品を残している。
J-158	仔牛誕生	1970(昭和45)	和高節二	明治31-平成2 向原町	農村に住み、そこに生活する人々や牛を主要なモチーフとして制作をした。本作と同様牛にそそぐ作者の限らない愛情を感じさせる「秋日和」(J-1
J-21	動物	1952(昭和27)	丸木スマ	明治8-昭和31 広島市	息子夫婦(丸木位里・俊)の手ほどきで74歳から絵を描く。本作や「小鳥の滝」など(J-19)小動物や植物などをテーマとした無心の作品からは、
O-624	大漁(二)	1960(昭和35)	名井真亀	明治29-昭和51 広島市	魚の群を何本もある長い手で捕まえている本図は、漁師の生活を支え続けた長年の営みを表すとともに、乱獲による環境破壊への警鐘のようにも受け取ることができる。作者は戦前から活躍する洋画家。
O-59	砂	1969(昭和44)	灰谷正夫	明治40-昭和60 安芸高田市	環境破壊かまたは核兵器によってか、荒涼とした砂漠となった未来の風景を思わせる。作者は自由美術展や二科展を中心に政治や社会に対する意識の高い
P-75	とんぼ	1978(昭和53)	殿敷侃	昭和17-平成4 広島市	絵画、版画の作品やタイヤを積み上げたり、海辺のゴミを焼き上げたりなどのイベントやパフォーマンスで環境問題や原爆にたいする意識の高い活動をし
HA-14	廃景	1984(昭和59)	川上力三	昭和10- 京都府	プレスされた空き缶のブロックをワイヤーで吊しているところを陶で作っている。大量消費の時代からリサイクルの時代を象徴しているように見える。